

TOWN NEWS

いずも話題

10月29日 1,300人が石段走破に挑む 第28回一畑薬師マラソン大会



第3部（女性全クラス）のスタート風景

10月29日、秋の恒例行事となっている『第28回一畑薬師マラソン大会』を一畑薬師（小境町）周辺で開催しました。

今年の大会は、地元をはじめ、北海道から鹿児島県まで1,329人が、また中国普陀山からは3人のランナーが参加し、健脚を競いました。

ゴールの後は、みな達成感でいっぱいの表情でした。今回は女性の参加も増え、全体の約1割でした。来年はさらに多くの女性の参加を待っています。

沿道での声援や大会運営に多くの方のご協力をいただき、ありがとうございました。

10月19日 出雲消防団（高松分団） 全国消防操法大会 小型ポンプの部 優勝

10月19日、兵庫県三木市で開催された「第20回全国消防操法大会」に、県代表として出場した出雲消防団（三成重徳団長、布野毅高松分団長）が、小型ポンプの部で優勝しました。

鳥根県代表が全国一となるのは、初めてのことです。

この大会は、火災現場で基本となる放水作業などの消防技術を競い合うもので、スピードや操作の正確性などにより、順位が決まります。出場した選手、団員は、仕事を終えた夜間や休日に練習を重ね、当日は息の合った操法を行いました。

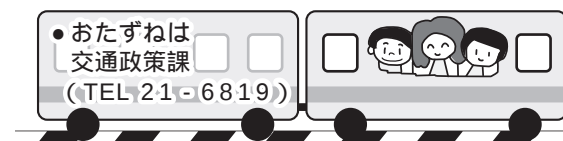


今後も、チームの団結力を生かし、万が一の災害に大きな力を発揮することが期待されます。



前列左から指揮者の伊藤真敏さん、2番員 瀬島徹さん、3番員 今若隆行さん、後列左から1番員 布野智大さん、吸管補助員の竹下将之さん。3番員の今若さんは、個人賞として『優秀選手賞』も獲得しました

公共交通を考える



昭和40年代からの自動車の普及により、移動の手段はバスや電車といった公共交通から自家用車主体に変わってきました。大量輸送がその大きな目的である公共交通は、利用者の減少により、採算性の悪い路線から次々に廃止されてきました。

一方、車の運転が困難な高齢者や障害者、児童・生徒など、公共交通の現状

公共交通の現状



高校生の通学にも利用されている路線バス（JR出雲市駅前バス停）

みんなに利用される公共交通を目指して

市では、市民のみなさんに親しまれ、安心して利用できる公共交通を目指して、今後もバスを中心とした交通網の整備を進めていきます。

整備にあたっては、公共交通の重要性を十分に意識しながら、路線の見直しや再編をしていきます。また、福祉的な側面から地域内の運賃格差の縮小、高齢者や障害者が乗りやすい低床バスの導入を進めています。

利用しよう！公共交通

さらに、交通不便地域の解消を図るため、利便性と経済性を兼ね備えた新しい交通システムの導入をデマンド型乗合タクシー（表紙）のモデル運行を通して検討していきます。

また、自家用車による多量の二酸化炭素ガスの排出は、地球温暖化の大きな要因といわれています。公共交通利用への転換は、環境面から必要となっています。

日ごろは、自家用車を利用してのあなたも、地域の公共交通機関を利用してみてはいかがでしょうか。休日に家族で市内をバスや電車で周ってみてもいいかもしれません。車の運転では見られなかった美しい風景や会話が楽しめるはず。



一畑電車が行った踏切安全教室（10月22日 湖遊館新駅）

忘れていませんか？ 踏切でのルール

平成16年度中に中国地方管内で起こった踏切事故は45件で、鉄道事故全体の6割を占めています。

一畑電車では、踏切内に車が閉じ込められたときの対処法を中心とした踏切安全教室、またJR西日本出雲鉄道部では、チラシの配布による啓発活動を行い、踏切事故の防止に努めています。

『踏切では一時停止と左右確認』。あなたの心がけが、事故の防止につながります。